

シグマ研究委員会ガンマ線生成核データ W.G.

昭和60年度第1回会合議事録

1. 日 時 昭和60年4月25日(木) 13:30-17:30
2. 場 所 原研本部第4会議室
3. 出席者 浅見, 五十嵐, 水本(原研), 肥田, 山室(NAIG),
八谷(三井造船), 井頭, 播磨, 北沢(東工大)
4. 配布資料
 - (1) GNASHの改良と $^{235}\text{U}(n, \gamma)$ の計算(肥田)
 - (2) Wの核データ評価(浅見)
 - (3) Cuの核データ評価(山室)
5. 一般報告(五十嵐)
 - (1) 1985年核データ研究会は11月12日から11月14日まで開催され, 中国から4名参加の予定。テーマは standard data の相対測定と絶対測定, 中国と日本の核データに関する activity。日本の Σ 委員会の activity として, FP と積分テスト, 閥反応, 崩壊熱, JENDL-PR1の核融合炉への利用, 遅発中性子, 最近の原子核理論などが話されることになっている。また, ポスター・セッションとして各研究施設の装置及び activity が紹介される。
 - (2) 7月23日から7月25日まで JENDL3-PR1 のワーク・ショップを原研で開催する。
6. 議 事
 - (1) 肥田氏から, GNASHによる ^{235}U のガンマ線生成断面積の計算結果が報告され, fission cross section σ_f を実験値に合わせることが特に重要であり, これに関連して σ_f の理論計算を検討していくことが述べられた。

- (2) 浅見氏からGNASHによるWの中性子放出断面積及びガンマ線生成断面積の計算結果が示された。同時に, Dickens et al. (ORNL-4847) のガンマ線スペクトル・データに疑問があることが指摘された。また, σ_γ はOMPにあまり sensitive でないので, 今後粒子放出断面積からOMPをきめる予定にしていることが述べられた。
- (3) 山室氏から, parity distribution の capture γ spectrum への effect について述べられた。また, 山室氏のきめた ^{198}Au のガンマ線強度関数を用いて $E_n = 200-600 \text{ keV}$ の ^{197}Au の capture γ spectrum がうまく表現されることが示された。更に, レモスのOMPを用いてCuからの α 粒子スペクトルがうまく表現されることが示された。